

## 開口の小さい鋼製2枚折り防火戸に使用する金物についての注意点

ドアクローザ工業会  
(社)日本サッシ協会

ドアクローザ工業会から、鋼製折り戸の金物に関して注意点が通知されています。

鋼製2枚折り防火戸が避難口として採用された時、ドア総面積3㎡以下、戸先側ドアの有効開口750mm未満のドア金物に注意が必要になります。この金物は、ドアホルダー(ドアキャッチ)と呼ばれ、折れ戸の上枠の吊元側に取りつきます。また、フラット金具(ロック装置)は、2枚の折れ戸を固定し1枚戸として開閉させ有効開口を確保します。このフラット金具(ロック装置)を使用する場合、ドアホルダー(ドアキャッチ)の選定または現場での調整を誤ると、ドアの開閉動作の支障や機器の故障の原因となるばかりか、非常時にドアが開かず避難経路が確保できなくなる可能性があります。

従いまして、現場でのこれらの不都合事例をなくすため、会員の皆様には下記周知をお願いします。

## 1. 金物メーカー選定の際、下表を基に金物の組合せを確認の上、採用願います。

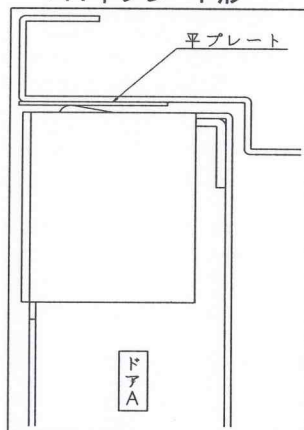
【フラット金具(2枚折り戸を1枚ドアにする金物)とドアホルダーとの組合せ表】

メーカー	フラット金具 (ロック装置)	ドアホルダー (ドアキャッチ)	平プレート形(*1)	現場調整形(*2)
リヨービ	MFC-1B	OH-11F	○	-
		OH-12F		
		OH-11BF		
		OH-12BF		
大鳥機工	MFC-1B	OK-1C	-	○
		OK-1CP		
日東工器	MFC-1B	N-51C	-	○
		N-51CP		
日本ドアチエック	T-LK	HCT-40	○	-

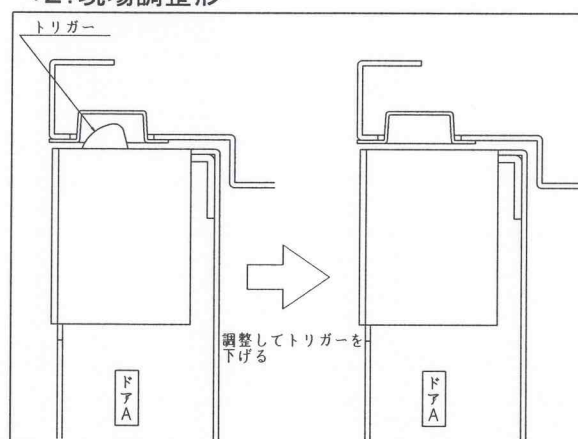
(注)ドア総面積3㎡以下、戸先側ドアの有効開口750mm未満の開口の小さい2枚折り戸の詳細は、添付「2枚折り戸の種類と動き」を参照してください。

## 【ドアホルダーの種類】

## \*1:平プレート形



## \*2:現場調整形

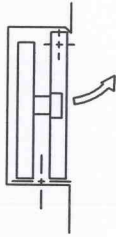
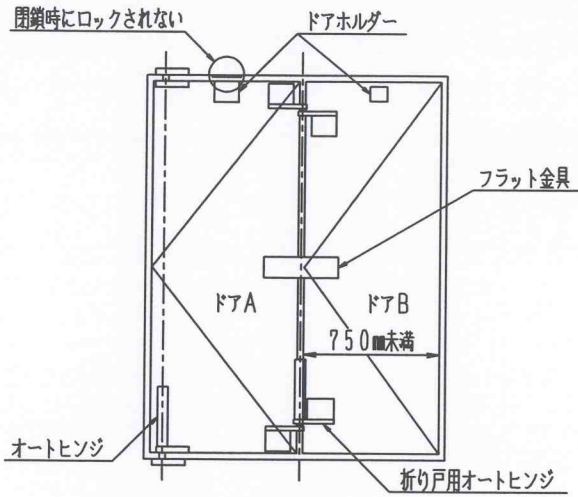


## 2. 施工時又は定期点検時、ドア閉鎖後にドアが確実に開くかを必ず現場確認してください。なお、ドア開閉に伴う確認、調整は、各金物メーカーの取扱い説明書を参照して下さい。

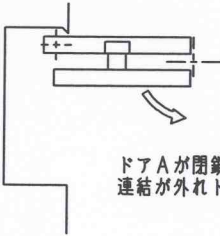
以上

## 2枚折り戸の種類と動き

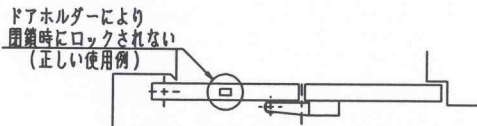
●ドア総面積3㎡以下、ドアB開放時の有効開口750mm未満の2枚折り戸



ドアAとドアBは、ドアホルダーで連結されて戸袋に納まります。



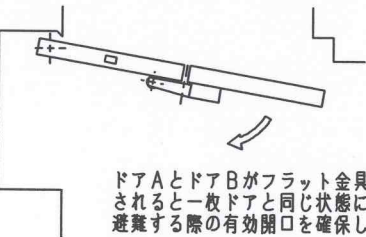
ドアAが閉鎖位置になると、ドアホルダーの連結が外れドアBは閉まります。



ドアホルダーにより閉鎖時にロックされない (正しい使用例)

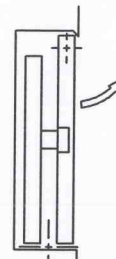
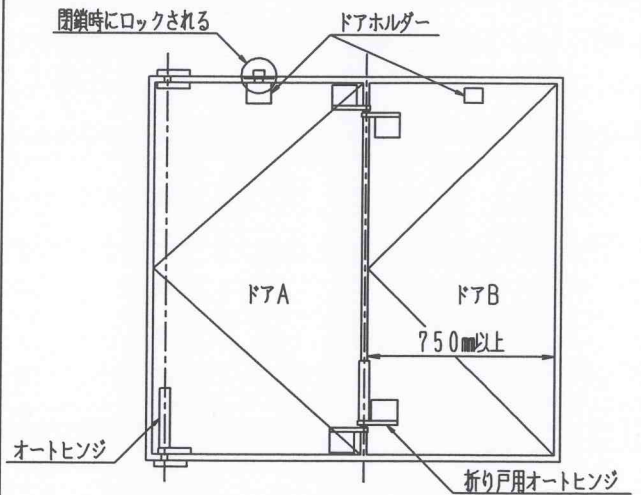
ドアAとドアBが閉鎖すると、フラット金具により自動的にロックされます。

(※この1枚戸の状態、ドアホルダーにより閉鎖時にロックされると戸が閉閉不能となります。)

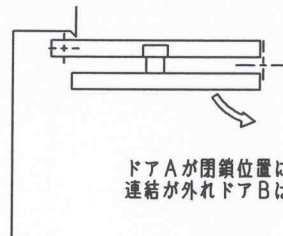


ドアAとドアBがフラット金具によりロックされると一枚ドアと同じ状態になり、避難する際の有効開口を確保します。

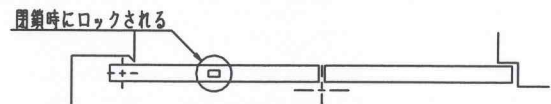
●ドア総面積3㎡を超え、ドアB開放時の有効開口750mm以上の2枚折り戸



ドアAとドアBは、ドアホルダーで連結されて戸袋に納まります。

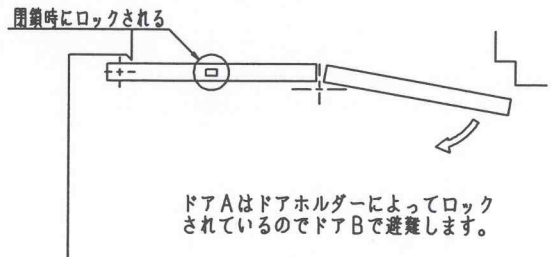


ドアAが閉鎖位置になると、ドアホルダーの連結が外れドアBは閉まります。



閉鎖時にロックされる

ドアAは閉鎖すると、ドアホルダーにより自動的にロックされます。



閉鎖時にロックされる

ドアAはドアホルダーによってロックされているのでドアBで避難します。

ドアキャッチ  
(N-51C・N-51CP型、OK-1C・OK-1CP型)  
併用時の注意事項

- ・ 防火2枚折り戸システムには、折り戸閉鎖時Aドア（吊元）とBドア（戸先）が水平になるようにAドア（吊元）とBドア（戸先）間に気密材等（別途）にて調整してください。
- ・ Bドア（戸先）を避難ドアとしてご使用の場合は、建築基準法により有効開口幅 750mm以上、高さ 1800mm以上、ドア面積を 3 m<sup>2</sup> 以下が義務付けられております。（告示 1370号）
- ・ Bドア（戸先）の有効開口幅が 750mm 以下の場合には、閉鎖時Aドア（吊元）とBドア（戸先）を固定し1枚ドアとして開閉できるフラット金具（MFC-1B型）をご使用ください。
- ・ フラット金具（MFC-1B型）をご使用の際は、下記事項に従って、ドアキャッチ N-51C・N-51CP型及びOK-1C・OK-1CP型の本体と固定金具とが保持されないよう調整してください。
  - （1） ロックナット（六角ナットは逆ねじ）を時計方向に緩め、固定トリガーがドアキャッチの本体面より0mm～2mmとなるまで保持力調整ネジを左方向に回してください。
  - （2） 保持力調整ネジ操作後、ロックナット（六角ナットは逆ねじ）を反時計方向に締め込み、保持力調整ネジを確実に固定してください。
  - （3） 調整後、ドアの開閉を行いAドア（吊元）とBドア（戸先）が一体となって開閉できることを確認してください。

注1：ドアキャッチの保持力を調整せず、フラット金具（MFC-1B型）をご使用された場合には、ドアの開閉動作の支障や機器の故障の原因となるばかりか、防火戸閉鎖後扉が開かず避難経路が確保できなくなり、重大事故に至ることがありますので必ず保持力の調整をおこなってください。

注2：施工時または定期点検時には防火戸閉鎖後、必ず扉の開動作を行い扉が確実に開くことを確認してください。

- ・ ドアキャッチの固定トリガー勘合部のない固定金具（特）（下図参照）を使用した場合には、上記（1）～（3）の調整作業は不要になります。

弊社にてオプション設定をしておりますのでご用命ください。

